

## 「2024年度ベトナム国家大学ハノイ校サマースクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 吉田 理帆

今回のプログラムに参加したきっかけは、二回生になって専修選択を前にし、興味もやりたいことも定まらな  
いまま悶々としていた五月に、たまたまクラスの掲示板で募集要項を見たことである。ベトナムという国に対  
しては、歴史や地理の勉強、またベトナム戦争を扱った本や写真集を見る中で、漠然と興味を抱いていたため、  
ほとんどためらうことなく渡航を決めた。費用や日程のやりくりは二の次といった状況だった。異国に足を運ぶ  
ことで、何か変わるんじゃないか、夏休みの終わりに迫る専修選択に向けても何らかの方向性を掴めるではない  
かという期待も抱いていた。

ハノイでの二週間はとても充実していた。帰国後数日を経て既に記憶は薄まりつつあるが、現地学生たちとの  
交流、ハノイの雑踏と喧騒、研修で訪れたチャンアンの自然やドウオンラム村の静けさの中で、とてもたくさん  
のを感じ、考えていたように思う。

何よりも大きな経験となったのは、考えてみれば当たり前のことだが、ベトナムが異国の地であり、京都から  
とても離れた土地であるということだ。物心ついて以来京都（府）で生活し、コロナウイルスの影響や大学入学  
後の個人的事情も重なり、この街を離れるという選択肢にほとんど目を向けたことがなかった私にとって、異国  
での生活はとても新鮮で心の踊るものとなった。京都から離れたことで、長い間縛られていた様々な制約から逃  
れ、これまでのこと、今後のこと、その他もろもろの現実を見つめ直す機会を作ることができたと思っている。  
さらに、二週間へとへとになりながらもハノイの雑踏の中に身を置き、現地の学生、また一緒に渡航した八人の  
日本人学生と話をするなかで、自分には学ぶべきことがたくさんあるということを確認できたことは、専修選択  
をはじめとした将来の方向性を考える良い機会になったと思っている。

中でも大きかったのは、言語を学ぶことの必要性、重要性を強く感じたことである。これには、日本語学習中  
のベトナム人学生との交流がとても大きな刺激になった。彼らはとても真摯に日本語を勉強していた。おかげで  
ベトナム語がほとんどわからない私たち日本人学生とも不自由なく積極的にコミュニケーションをとってくれ  
た。彼らの姿勢は心から尊敬できるものであった。

特に印象的だったのは、日本語初級クラスの授業に参加したことである。上級生ほど学習が進んでおらず、ま  
だ片言の日本語で、それでも日本から来た我々を大歓迎してくれた彼らの授業において、私はわかりやすい日本  
語を話そうと心掛けた。これは予想以上に難しいことであった。自分が母語である日本語を、特に会話において、  
いかに粗野に扱ってきたのかということを感じたのだ。母語同士での会話では、文法事項は正確には守られな  
いことが多い。省略やニュアンスによってどうしても意味を繋げられてしまう。だが母語話者にとっては当たり  
前なそのことが、外国語としてその言語を学んでいる人には全く通じない。わかりやすいよう、正しい言語を話  
せるよう、常に心掛けないといけない。私がこの授業を通して学んだのは、外国語を学ぶことの重要性以上に、  
母語と真摯に向き合うことの必要性であったように思う。目の前に人がいて、何か伝えようとしていて、その状  
況を意思疎通の段階にまで導いていくのは、紛れもない、お互い学びあう外国語であり学び続ける母語である、  
言語なのだと思つた。

また、日本人学生に向けて開講されたベトナム語初級講座も実りあるものとなった。習ったベトナム語を街中  
で使ってみると、現地の人たちは予想以上に喜んでくれる。これは、新しい言語を学ぶことの最もシンプルでま  
た大きな喜びであると思つた。

以上述べてきたようなベトナムでの時間、学びを通して、私は帰国後も、もっと言葉を大切にしていきたいと  
強く思っている。結果的に、締め切りに追われるようにしてではあったが、文学部の専修選択にも国語国文学専  
修に分属希望を出すことができた。強く興味を抱ける対象などあまりないとずっと思っていたが、結局のところ、

異国の地に身を置いて、知らない言語の中で母語を学ぶことの大切さを再確認し、原点に戻ってきたという感覚がある。今後も学習を頑張っていきたい。

そして願わくば、もっと長く海外で生活してみたいなあとも思ったりする。今回のように、遅刻したり忘れ物したり行き当たりばったり、人に頼ってばかりの形ではなくて、もっときちんと準備して自立した上で、もう一度京都を離れられたらと思っている。幸い、今回のプログラムでは長期留学を考えている良い仲間がたくさん出会うことができた。課題は山積みだが、彼らの姿勢を見習い、私自身も今後に向けて、真面目に勉強していきたい。